

2500人を看取った在宅医とがん経験者が語る

## 対談

# 「痛くない死」を選ぶために

構成◎福永妙子 撮影◎本社写真部



大谷直子 女優

長尾和宏 医師

ながお かずひろ 1958年香川県生まれ。医学博士。医療法人社団裕和会理事長。長尾クリニック院長。『「平穏死」10の条件』『薬のやめどき』など著書多数。往診や看取りなどの日常を記録したドキュメンタリー映画『けったいな町医者』は、2月13日(土)より全国順次公開予定

**新**型コロナウイルスの感染拡大により、医療崩壊が現実的な危機として現れたことは、家族の看取りや自分の最期について考えるきっかけになつたかもしれません。在宅医療に携わる長尾和宏さんに、がん闘病の経験を持つ大谷直子さんが終末期医療への疑問や不安を投げかけると――

長尾 宇崎竜童さん演じる夫とのやりとりには、「ああ、いい夫婦だなあ」としみじみしました。この映画のテーマは「死」、それも「平穏死」ですが、夫は妻に見守られながら、管1本つながれることなく、酸素マスクもなしで穏やかに旅立ちました。しかも、亡くなる数日前には、縁側で打ち上げ花火を眺めるんです。妻と、そして気心の知れた在宅医（柄本佑さん）と酒を酌み交わしながら、死を迎えたのです。

大谷 そうでした。

長尾 病院にいたら、絶対にできないことです。医療用麻酔で適切に痛みの緩和ケアを行い、まさに「痛くない死」を迎えられた。

大谷 映画には、先生が日々体験なさいている「リアル」が描かれているのでしょうか？

長尾 そうです。高橋伴明監督が、僕が看取った患者さんたちの実例をモチーフに脚本も手がけ、終末期について考えさせる素晴らしい作品になりました。昨日も、映画と似たようなお取り扱いが2つありました。一人は70代の男性で、奥様は映画の中の大谷さんにそつくりだった。

大谷 まあ、そうでしたか……。

長尾 その方は、いずれ亡くなるということがわかつた時点で抗がん剤治療をやめました。



在宅医の河田（柄本佑／中央左）は、末期の肝臓がん患者・本多彰（宇崎竜童／中央右）を担当、本多の妻・しぐれ（大谷直子／右）とともにかけがえのない時間を過ごす（©「痛くない死に方」製作委員会）

大谷 その前は病院で治療を受けていらしたんですね？

長尾 そうです。その後、在宅に切り替えた。当初、余命は1カ月くらいと思われていたのですが、抗がん剤をやめたらとても元気になつて、5カ月もご家族と過ごせたんです。その間、旅行もできたそうです。

大谷 まあ、よかったです。

長尾 もう一人は96歳のおばあちゃん。これも映画に出てきたエピソードとまったく同じで。

大谷 お子さん、お孫さんたち、みんなで声をかけたり、体をさわったりしながらお別れをするシーンがありました。

長尾 ええ。看取りの時、ご家族の方が必要でおっしゃることがあります。

大谷 思つたよりも楽に逝きました。痛がらず、苦しまず、眠るように」と。

大谷 うーん、それは理想的ですね。

◆過剰な延命治療による溺れ死に◆

長尾 大谷さんはご自分の「死に方」を意識されたことは？

大谷 2007年に悪性リンパ腫になり、「自分はあと2、3カ月で死ぬな」と感じました。体重は33キロまで落ち、姿形も様変わりして、これはもう恢復は見込めないだろうと。

大谷 「最期はこんな死に方をしたい」ということまで考える余裕もなく、まあなるようになる、ともかく自分が死ぬのだ、という覚悟だけがありました。けれど、幸いなことに恢復して。その後、4年前に大腿骨の骨折、3年前にがんの再発といろいろありましたけど、半年に一度の検診を欠かさず、今のところ生きています。

大谷 怖さ……。人間誰しもありますか。

長尾 今、死ぬことへの怖さ死ぬ瞬間まで怖いんじゃないでしょうか。そうそう、夜、寝床に入ると、「ああ、このままが覚めなかつたら、誰が気

大谷 怖さ……。人間誰しも死ぬ瞬間まで怖いんじゃないかな。これまで誰にも寄りかかって生きたことがないんです、残念ながらね、これまで誰にも寄りかかって生きにならないの、男の人。

長尾 あつははは。

大谷 ともかく、独りですし、そう

づいてくれるんだろう」と思うことがあります。

長尾 とくに、体調が良くなかったり、落ち込んだりすると、あれこれ考えますよね。

大谷 一方で、考えても仕方ないとも思うんですよ。不慮の事故もあるし、ベッドの上で死ねるかどうかわからない。ひとつ願うとすれば、とにかく「痛くないよう」に」と。長尾 誰もがそう願います。

大谷 私、今回の映画に関わって、在宅医療というものを初めて知りました。ただ、私は離婚しているので、子どもは3人もいませんが、「使りがないのは元気な証拠」と教えたものだから、干渉しない。生存確認のために、未娘にひとりのものなんですね。子どもは3人も安心していると思います。

長尾 それだけでも、娘さんはとても安心していると思います。

大谷 「お母さんは今日も生きてるようだから、私たちはこっちで平和に暮らせる」という安心よ(笑)。私ね、これまで誰にも寄りかかって生きにならないの、男の人。

長尾 あつははは。

大谷 ともかく、独りですし、そう

されば病院で死にたいんです。在宅だと、お医者様とか看護師さんが訪ねてこられるわけでしょう。私、誰であれ、家に上がられるのは苦手で。幸いにも、お世話をなっている病院の先生がとても信頼できる方なので、先生に看取られながら、病院でされに死にたい。

長尾 何がなんでも在宅、というわけではありません。病院のほうが多い場合もあります。たとえば、奥さんのことが大好きだから、面倒をかけたくない。だから最期が近づいてきたら病院に入る、という方もいらっしゃいます。それも「愛」なんですね。多様な選択肢があつていい。ただ、痛みなく、苦しまず、きれいに死ねるかどうか、それは病院にもあります。

大谷 そうかもしれません。長尾 平穏死とは、生き切つて自然に死ぬこと。枯れるように穏やかに命を終える……、樹木と同じです。人は生まれた時、体重に占める水分量は約8割と言われます。それが年齢を重ねるうちに減少していき、がる頃には4割くらいまで減っている。大谷 それが自然なことなんですね。

長尾 はい。終末期の自然な脱水症状です。けれども、病院に入ると、輸液などで延命治療がなされ、それがどうお考えですか？

大谷 延命のためだけにチューブにつながれるのはイヤ。点滴もしないでいいです。

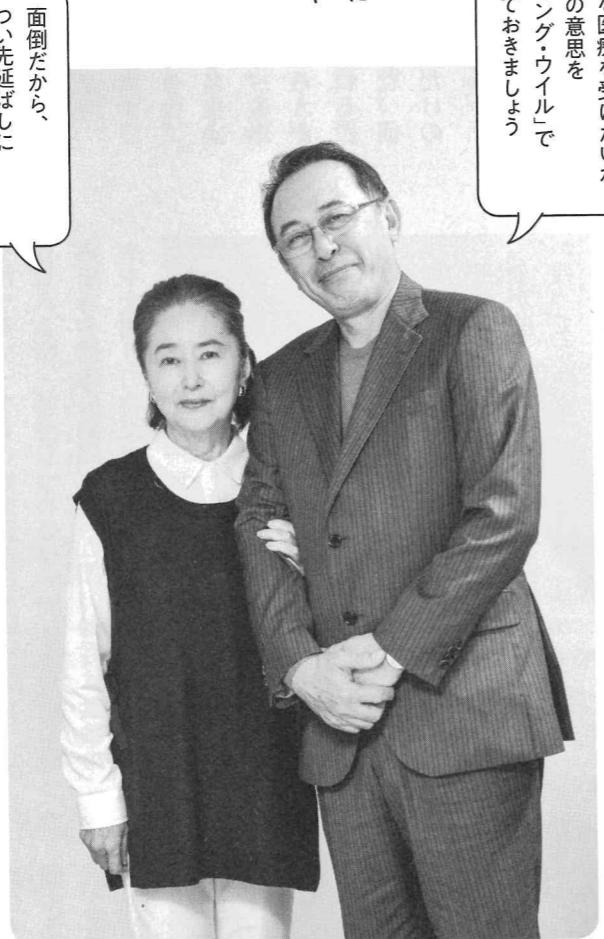
長尾 主治医は2、3人いてもかまいません。治してくれる医者、心を癒やしてくれる医者、看取りを相談する医者と、アッシャーくん、メッシーくんみたいに使い分けている（笑）。大谷さん、延命治療についていいです。

ずいらしてくださいよ」と言って親身になって診てくださる医師もいます。はて、自分の「死に方」については、どの先生に、どう話せばいいのか……。

長尾 はい。終末期を迎えたときには4割くらいまで減っています。大谷 それが自然なことなんですね。

幸いにも、お世話をなっている病院の先生がとても信頼できる方なので、先生に看取られながら、病院でされに死にたい。

◆ 尊厳死を望むなら  
「リビング・ウイル」を



書く。さらには  
家族とよく相談  
して理解を得て、

向き合わなければ

面倒だから、  
つい先延ばしに  
していたけれど、

真剣に

示しておきました。

も自由。ただ、ご本人が日頃から延命治療を望まず、自宅で最期を迎えて死を迎えるために、死の瞬間を引き延ばすだけの延命を拒否するといふ宣誓書です。自分の意思を伝えられなくなる前に書いておかなくては

する「リビング・ウイル」。

尊厳死、つまり不治かつ末期の状態で、人間としての尊厳を保つて死を迎えるために、死の瞬間を引き延ばすだけの延命を拒否するといふ宣誓書です。自分の意思を伝えられなくなる前に書いておかなくては

れなくなる前に書いておかなくては

が中止されることはありません。やめると、医師が治療を放棄したことになりますから。1日あたり2リットルの輸液を行うと、心臓や肺に大きな負担がかかって、患者さんはあなたが苦しみながら最期を迎えることがあります。大学病院では、過

ぎな負担がかかつて、患者さんはあなたが苦しみながら最期を迎えることがあります。大学病院では、過

頼しているんですけど、「私は痛くない死に方」という映画に出ました。樂に死ねるんですって」と話したら、興味を示されなかった。以前にも、

「治すのが医者の仕事です」とおっしゃっていました、

患者が「死」について語るこ

とに對し、抵抗があるのかも

されません。

長尾 医療者の多くは、一秒でも長く生かすことを使命と

考えます。終末期医療、つまり痛みに苦しむことなく穏やかで自然な最期を迎えるため

の医療についてはあまり関心がない

のです。僕が見てきた終末期の患者

さんは、最後まで自分の口で食

べ、笑い、おしゃべりをし、意思表

示をされます。僕にとっては日常で

ますが、世間では「特殊な事例」「美談

」と思われがち。でもね、こういう終

末期の迎え方、平穏死は可能なん

です。

大谷 そういうことを医師や看護師

さんたちが知らないだけ?

長尾 だから私は、病院で講演した

り、著書を通じて情報発信したり

しているのですが……。

大谷 私には、病気を治してくれた

先生もいますし、年に2回、億劫が

る私に、「検査をしますからね。必

ずしているわけですが……。

長尾 うそだ。

大谷 私には、病気を治してくれた

先生もいますし、年に2回、億劫が

る私に、「検査をしますからね。必

ずしているわけですが……。

大谷 うそだ。

長尾 うそだ。

大谷 うそだ。

</div

〈15~91歳、本誌読者の声〉眞子さまのご結婚、私はこう思う

# 婦人公論

Fujinkoron

N°1559 600yen 2021

2/24

スペシャル対談

初88歳、97歳にして  
初めて自分がわかった

五木寛之×  
佐藤愛子

大人になるって難しい!  
ジエーン・スリー×  
松任谷正隆

望海風斗  
〈宝塚レポート・雪組〉

生田斗真  
〈カラーグラビア〉

「痛くない死」を  
選ぶために  
大谷直子×長尾和宏



〈特集〉

「心地よく」がいい  
人づきあいは

コロナで変わった  
つながり方  
残間里江子×水島広子  
会えなくて孤独じゃない  
田村セツコ  
「NO」と言える人になる  
歌舞伎界は大きな家族  
尾上松也×  
尾上右近

表紙・中谷美紀